



バンコク便り



1. はじめに

タイ気象局は5月22日に雨期入りを宣言し、南部を除き10月中旬頃まで雨期が続く見通しとしています。2022年の訪タイ外国人観光客数は年間1,115万人でしたが、今年は1月から5月までで1,000万人を超えており、訪タイ者数は好調に推移しています。

街なかでは5月14日に行われたタイ議会下院の総選挙で野党が第1党となったことから、新政権発足に向けた連立の動向が話題となっています。

2. 現地ビジネス情報 (BCG 経済モデル推進によるタイ投資機会について Vol.3 C:循環型経済)

BCG (Bio-Circular-Green) 経済モデルのうち、今回は「C:循環型 (Circular) 経済」を取り上げ、その現況と展望をご紹介します。

循環型経済「サーキュラーエコノミー (circular economy)」とは、2015年にヨーロッパの経済政策として発表され広まった概念ですが、これまでの経済を循環がない「一方通行型モデル (linear economy)」と捉え、それに対立する概念として生まれたものです。現在排出されている廃棄物を資源として、再活用し続ける循環の仕組みの構築を目的とした新しい経済モデルです。

日本においては、「令和3年度 環境白書」で初めて「サーキュラーエコノミー」という言葉が用いられ、今ではドイツ・スウェーデン・スイスと並んで、循環型経済に不可欠なリサイクル技術が発達している国として世界的に認知されています。こうした背景から、タイ企業は日本企業との技術連携に大きな関心を示しています。ご参考として、タイ企業が日本企業に対して期待している技術提携分野の一部をご紹介します。タイ側のニーズから日本の中小企業が有する先端技術とタイの大企業が結びつく可能性は大いにありそうです。

タイトル	募集企業	募集企業概要	ニーズ内容
循環型経済に対応するケミカル及びメカニカルリサイクルの技術・共同開発	SCGケミカルズ	タイ財閥企業サイアム・セメント・グループ(SCG)の3つの主要事業(セメント建材事業、石油化学事業、製紙事業)のうちセメント事業を手がけるタイ最大級の総合石油化学企業	1. 循環型経済に対応した技術 ・廃プラスチックを産業資材や原料にリサイクルする技術 ・リサイクル可能な材料設計 ・プラスチック含有量を低減する高性能素材の技術 2. 再生可能な素材・技術 ・バイオベースの化学薬品や原料 ・プラスチック製品の生分解性を向上させる材料や技術
再生可能エネルギーの技術パートナー	PTT(タイ石油公社)	天然ガス事業、石油事業を行うエネルギー関連の国営企業でありタイ国内で最大の時価総額	下記要件に合致する技術パートナーの募集 ・アジア各国における再生可能エネルギーの投資先(太陽光や風力発電などを手掛ける企業で実績を持っていること) ・現在の技術よりも効率的、または同じ性能を保ちながらより安価な再生可能エネルギー技術
再生可能エネルギーの技術パートナー	B.Grimm Power Public Company Limited	1878年に設立された医療、エネルギー、建築・産業システム、不動産、eコマース、交通などに取り組むコングロマリット企業	・新しい再生可能エネルギー(太陽光、風力)技術 ・再生可能エネルギー装置 ・再生可能エネルギーに関するコンサルティングサービス

<https://tjri.org/>より引用

3. 現地トピックス (ものづくり商談会バンコク会場開催!)

5月10日~13日までNC Network Group 主催で、当行含む全国の金融機関・自治体など26団体の共催にて、バンコク都内展示場で「FBC アセアン 2023 ものづくり商談会」バンコク会場 (タイの製造業向け三大展示会の一つ INTERMACH 等との併催) が開催されました。

出展企業数は43社、来場者数は42,011名となり、サプライヤー探しを目的とした日系自動車メーカー・中華系EVメーカー・インド・欧米等のバイヤーと多くの商談が行われ、参加者からは「タイローカル企業の開拓に繋がった」、「Tier1・2のバイヤーが多いと取引に繋がる可能性が高い」といった声もあり、今後の販路拡大に向けた良い機会となったようです。今後、ホーチミン会場(6/23-25)、ハノイ会場(8/23-25)、パタヤ会場(9/6-8)、オンライン(10/10-12)でも開催されます。



商談中の様子

【本件に関する連絡先】 荘内銀行営業推進部 地方創生室 軽部・齋藤 023-626-9050